

認知症ケアの実際における自我機能と支える対応例

(「認知症ケアの自我心理学入門」〈クリエイカもがわ〉より)

1. 自尊感情を支える対応例

- 認知症の人も存在価値のあるユニークな人間であることを示す
- 認知症の人が、自分の状況をコントロールできるという体験をすることは、自尊感情にとって重要

2. 集中力支える対応例

- 会話の話題を次から次へと早く変えない
- 励ましも、一動作ごとに分けて行う

3. 記憶を支える対応例

- 会話を、「思い出しますか」「覚えていますか」という質問で始めない
- 質問を多くせず、その日が宿題の点検に終わらないように
- いつ、誰が、何を という質問を避ける
- 正しい答えが得られるかわからない質問はしない
- 大切にされてきた古い物や写真を使って記憶を引き出す

4. 言葉を支える対応例

- 話しかける前に、認知症の人の注目を集める
- 同時に多くの要求をしない
- 間違いを訂正しない
- 身体言語を使って話すように心がける
- とりとめのない話であっても、キーワードを見つける。
- 同じことを表現するのに同じ言葉をいつも使う。便所？トイレ？

5. 抽象力を支える対応例

- 洗面中に、「パンにしますか粥にしますか」と言っても想像できない

6. アイデンティティを支える

- アイデンティティを強化するための活動や仕事を見つける
- 例えば洋服など、自分独自のスタイルを持ち続けられるように援助する

7. 見当識を支える対応例

- 今日は何日かという質問によって、不安にさせない
- (見覚えがあるかがはっきりしない時に)「私に見覚えがありますか？」と質問しないで下さい。代わりに自己紹介をして下さい。
- 背景の色と異なる色にすると、対象物がはっきり見えます。
- 明るい床に敷かれた暗い色のじゅうたんは穴のように思われます。
- 食卓にたくさんの物が置かれていると、見分けが難しくなります。

8. 妄想、幻想を支える対応例

- 幻想や妄想によって起こる感情は受けとめて認めてあげて下さい。しかし、内容に関しては認め

ないで下さい。

○尿道炎が幻想や妄想による混乱を起こすことがあります。

9. 判断能力を支える対応例

○多すぎる説明をしない

○道徳的に非難したり、幼児に対するような態度は避けて下さい

○うるさい母親のようなふるまいは避けて下さい

10. 感情的にならないように支える対応例

○身体的な疾患がないか、音・話し声があふれていないか、時間的にせかされてないか、応えられない要求にさらされていないか、理解できないことを言われていないか、周りで起こっていることを解釈できていますか、即座に要求が満たされない状況ではないですか、予想外に対処できない状況ではないですか、人格・自由感が制限されていませんか、妄想や幻想がありませんか

11. 防衛反応に対する対応例

○防衛には目的があり、そのことに考慮し、防衛を攻撃しないで下さい

○妄想症的な傾向や疑惑は、多くの場合、認知症の人が自分は不十分で価値がないと思っていることを覆い隠そうとするためです。

○幼児語を使って、認知症の人を子ども扱いしなして下さい。

12. 自己決定を支える対応例

○出来る限り、認知症の人が自己決定権と共同決定権を行使できるように努力して下さい

○できることを取り上げない

○自立しやすい様な環境設定、例えば、鏡の前に櫛を置く、ようなことをしてみる（）

○掛け違えたボタンをすぐに直さない

13. まとめ

○自我を支える対応の目的は、認知症の人がユニークで総合的な一人の人間として実感できるように支援することです。

○自分を総合的な存在としてまとめられるように、認知症の人とその人が生きた人生を話し合っ
て下さい。認知症の人が人生全体を把握することがたとえできなくても、あなたは、その人が
存在する一貫性・継続性と意味を短い瞬間、感じることを援助することができます。